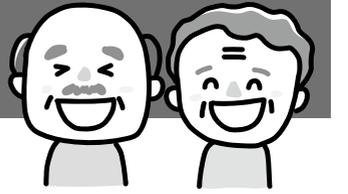


人口減少対策・4病院再編・女川原発

県民に寄り添う県政への転換を!



天下みゆき県議の代表質問 2/19

東北電力は女川原発2号機を再稼働したが、約4年間で使用済み燃料プールが満杯になることから、使用済み核燃料を「一時的」に保管する乾式貯蔵施設の新設許可申請を規制委員会に出しています。規制委員会の許可がおりると、県知事と石巻市長、女川町長が安全協定に基づき、事前協議への回答を行うことになっています。

原発 女川を使用済み核燃料の最終保管場所にするな

天下県議

女川が使用済み核燃料の最終保管場所になってしまふ危険は消えない。乾式貯蔵施設での保管が「一時的」だという保証はどこにあるのか。

■村井知事

国の第7次エネルギー基本計画に、乾式貯蔵施設の使用済み燃料は、六ヶ所再処理工場へ搬出するという方針が明記されたので、一時的なものとして認識している。

天下県議

六ヶ所再処理工場は昨年8月29日に27回目の工事延期を表明し、完成の見通しが立っていない。知事は、「使用済み核燃料の行き先も時期もはっきりしない乾式貯蔵施設の新設は認められない」と東北電力に言うべきだがどうか。

■復興・危機管理部長

施設の安全性を確認し、地域住民の健康を守り、生活環境の保全を図る観点から、事前協議への回答を行う。今後、国の審査結果も踏まえて適切に判断する。

「最終保管場所にさせない」と言えない村井知事

4病院再編

患者・病院職員など 当事者を蔑ろにするな!



11月議会で、知事は県立精神医療センターの名取での建替えを表明しました。天下県議は、精神

医療センターをめぐる混乱は、当事者である患者さんや病院職員を蔑ろにして強行しようとしたことが、最大の問題だった。知事は大いに反省するべきだと追及しました。

「精神医療センターと東北労災病院の移転合築に向けた協議確認書」は白紙に戻せ

県は、「県北部の精神科医療に対応する機能を富谷市に整備する」と言っています。その内容を問うた天下県議の質問に対して、保健福祉部長は、「病床機能は持たず、仙台医療圏北部エリアの『にも包括』体制の充実に資するような、患者の相談体制や外来診療の機能などを想定している」と答えました。天下県議は、「東北労災病院が移転しなくても、既存の精神科クリニック等との連携など他の選択肢も検討すべきだ。労災病院の患者さんや職員、

知事は判断の前に 県民や議会の意見を聞け

天下県議

そもそも知事には、「女川を使用済み核燃料の最終保管場所にはさせない」という意思はあるのか? ■村井知事 国が『一時的』と言っているのだから、最終保管場所にはならないと思っている。

天下県議は、「あまりにも受動的だ。県知事として『させない』と言うべきだ」と批判しました。

知事は判断の前に 県民や議会の意見を聞け

天下県議は、乾式貯蔵施設設置に対する知事の判断の前に県民と県議会の意見を聞くことを求めました。

村井知事は「住民合意を必要とするものではないが、東北電力に丁寧な説明を求める」と県として県民の意見を聞かない姿勢を示し、県議会の意見について復興・危機管理部長は、「どういった手続きを踏んで最終判断を伝えるのか考えていきたい」とあいまいな回答でした。

県民や県議会の意見を聞かずに「了解」すれば、民主主義の大問題です。

人口減少対策 多くの県民に届く 子育て支援策に 本気になって取り組み!

知事は、「新・宮城の将来ビジョン（2020年12月策定）」の4本柱の1つに、「社会全体で支える宮城の子ども・子育て」を加えました。宮城県の23年の合計特殊出生率は1.07と5年続けて過去最低を記録し、全国ワースト3位です。また、県民意識調査では「子ども・子育て支援」が、21年度以降、3年間ずっと「不満群」の1位でした。

天下県議は、「多くの県民に届く子育て支援策が乏しい。本気になって取り組むべきだ」と言っており、子ども医療費助成への支援拡充や学校給食無償化への支援等を求めましたが、保健福祉部長や教育長は「国に要望する」「国の動向を注視する」と、県民や市町村の願いに背を向けました。

再任用上限二部撤廃へ

また天下県議は、安定雇用が人口減少対策に欠かせないと、県の会計年度任用職員における再任用更新回数の上限撤廃を求めると、知事は「来年度、一部の職について撤廃する方向で現在詰め調整中」と回答しました。

地域住民が安心できるよう、協議確認書は白紙撤回せよ」と求めました。

宮城県のがん医療の後退に懸念

県立がんセンターは、研究所があることで医療と研究一体で医師を確保・育成し、がん医療の水準を高めてきました。がん医療の水準を高めてきたが、仙台赤十字病院と統合する新病院基本構想には研究所がありません。また、県立がんセンターが果たしてきた役割の1つが希少がん・難治がんの治療で、東北大学と二分して県内の患者を診てきましたが、新病院での継続が危惧されます。知事や保健福祉部長は「東北大学と連携して」「県全体のがん診療の底上げを図る対策を講じる」と答弁しますが、具体的ではありません。

天下県議は、「宮城県のがん医療が今後後退するようなことがあれば、統合を見直すべきだ」と求めました。

●日本被団協にノーベル平和賞。原爆投下から80年、核兵器のない平和な世界を! 天下県議の質問に知事は、宮城県原爆被害者の会「はぎの会」の原爆死没者平和祈念式典、及び、広島・長崎で開催される「平和祈念式典」に参加の検討を表明しました。

日本共産党 県議団ニュース 速報版 2025年3月 第68号 発行：日本共産党宮城県議会議員団 (控室) TEL 022(211)3523 FAX 022(268)6093 E-mail: info@jcpmk.jp web: www.jcpmk.jp/